日刊 動労千葉
81.7.27
No. 803
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二ー八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〜六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

5日間の勾留延長攻撃を怒りを込めて弾劾する！

「ガンバレよー！」6名の仲間の乗ったバスにかけより、口々に激励する組合員（7月23日、勾留理由開示公判、千葉地裁）

六名の仲間を即時釈放せよ！

＝完全黙秘つらぬき、苛酷な取調に毅然と対決＝

千葉地裁は、25日わが動労千葉弁護団の全く正当な『勾留取消請求』を却下し、理不尽にも「5日間の勾留延長を認める」決定を行なった。

われわれは、この千葉地裁の決定に対し満腔の怒りを込めて弾劾する。六名の仲間は、検事の厳しい取調べに対し、完全黙秘の闘いを貫徹している。わが動労千葉の組織破壊を目的とした権力へのデッチあげ・告訴、タレコミを行ない、六名の仲間と家族をこの上ない苦しみに叩き込み、権力に売り渡した嶋田誠、斉藤吉司、佐藤次男をはじめとする動労「本部」反動分子を絶対に許さない。完黙で闘う六名の仲間をあくまでも守りぬき、激励し、「本部」反動分子ー権力一体となった攻撃を断固粉砕しよう。

自白強要のみを目的とした勾留延長攻撃

25日の千葉地裁の決定」は、明白に六名の仲間に対する自白強要のみを目的とした極めて理不尽なものである。

この延長自体断じて許せぬ反動的決定である。千葉地検は当初、全員に「10日間の勾留延長」を請求したのであるが、われわれと六名の正当にして断固たる闘いの前に千葉地裁もそれを却下し、「5日間」に短縮せざるを得なくなったものである。

このことは、何よりも**オ一に**、六名の仲間が完全黙秘で闘いぬいていること。**オ二に**、検察側のあまりに異常な不当かつ政治的取り調べ。何よりも「事件」なるものがそもそもデッチあげであるが故に、調べるべき何ものも無い事。**オ三に**、連日にわたる宣伝カーによる六名への激励行動、津田沼支部全組合員総決起による差入れ・家族激励・宣伝活動、動労千葉全支部と本部法対部・弁護団一体となってのありとあらゆる精力的闘い。

―この動労千葉と全国の多くの支援・労組の闘いと獄中の闘いが一体となってかちとった一大高揚である。

「本部」反動分子の告訴ータレコミ、権力への売り渡し＝逮捕攻撃を粉砕せよ！

六名の仲間は、今、千葉刑務所の中で一日八時間～九時間という人権を無視した、転向を強要する卑劣な取調べに対し、完全黙秘で闘いぬいている。六名の仲間たちは「『本部』革マルと権力のむき出しの連合した攻撃には怒りで体がふるえる思いだ。あんな卑劣な奴らのデッチあげの攻撃に負けてなるものか。徹底的に闘う。外の事や家の事は、仲間を信頼してまかせる。ガンバル」との決意を伝えてきている。われわれは六名を全面的に包み守り、更に不当な「出頭命令」攻撃と闘いぬいている四名を守り闘っていこう。今こそ、動労「本部」革マル分子＝ころび屋・嶋田誠、斉藤吉司らに対する憎みてあまりある怒りをもえたぎらせ、連日の激励・宣伝行動、差入れ、家族対策、弁護士接見、など出来る事は何でもやりぬこうではないか。

千葉県社会党と県労連の全面支持を得て「不当介入＝弾圧反対！早期釈放！」要求署名は、組織内はもとより、県内の多くの労組の手によって拡大されている。

今こそ、動労千葉一、三〇〇名と家族の総決起で、二週間闘争を勝利しよう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！